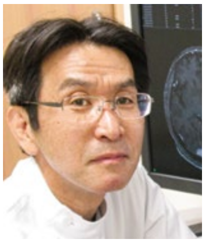
ご自由にお持ちください

公立丹南病院広報誌

たんなん通信

2023年 夏号 Vol.63

「丹」と「水銀」



副病院長
竹内 浩明

公立丹南病院は丹南地区（鯖江市・越前市・池田町・南越前町・越前町）唯一の公立総合病院です。福井県が誕生した明治14年に、現在の丹南地区は丹生郡、南条郡、今立郡を含めた3つの群で構成されていました。「丹南」の名前の由来は、丹生郡と南条郡の頭文字を合わせたものですが、現在、今立郡を含む丹南地区は全国的にも注目されており、「今(いま)丹南(たんなん)」の時代が来たと思います。

丹南の「丹」は硫化水銀のことですが、その鉱石は赤色に輝き、イギリスの小説や映画で有名なハリーポッターの題名と同じく「賢者の石」と呼ばれ、古代から不老不死や錬金術の原料になると信じられてきました。日本では、この「丹」から神社の鳥居の朱色塗料やはんこの朱肉が作られます。その色（丹色：にいろ）は、日本の伝統色の1つであり、「丹」自体に防虫殺菌効果もあり、魔除けを含め、生命力や子孫繁栄を表す神聖な色とされました。

丹色(にいろ)

特に、皇太子が儀式で着用する衣服の色は、黄丹袍(おうにのほう)と呼ばれ、その色は昇る旭日を象徴し、皇太子以外使用することができない禁色でしたので、庶民が着ていれば重罪だったと思いますが、現在では、その目立つ色合いから、街中やユニフォームなどでも着ている人をよく目にします。ちなみに、丹南病院のイメージカラーも丹色です。

また、明治初期の戊辰戦争では、官軍(天皇)側に丹色の錦に金色の日像・銀色の月像を描いた「錦の御旗」を掲げ、官軍の士気を高め、逆に賊軍とみなされた幕府軍の戦意を喪失させ、官軍を勝利に導きました。

話はそれますが、この戊辰戦争において、戦傷病者を治療する救急現場では、江戸時代の主流であった漢方医学では対応できないことが明らかとなり、西洋医学や外科的処置を行う治療施設が各地に設置されたのが、日本での病院の始まりといわれています。戊辰戦争の後、1894年に日清戦争が勃発し、1898年に鯖江歩兵三十六連隊衛戍(えいじゅ)病院が創立されましたが、そこから名称変更を経て、2000年からはその地に公立丹南病院と名を変更し、現在に至っています。その名残のある当病院は、災害拠点病院、感染症指定病院として有事の際にはその役割を担うべく、最近では、新型コロナ感染症において、できうる限りの対応をしてまいりました。

「丹」からは水銀が抽出されるので、水銀の原料としても貴重でした。水銀の沸点は約356℃、融点は－39℃です。つまり、水銀は常温では液体ですが、熱すると気化して見えなくなり、冷やすと再びきれいな銀色の液体として再現されます。昔の人は、そうした現象や銀色に煌めく様を見て、賢者の石と同じく不老不死あるいは老化防止や美容の効用があるものと妄信し、秦の始皇帝を始め、飛鳥時代の持統天皇、アメリカ大統領のリンカーンなど多くのセレブが飲用していました。

ちなみに水銀の毒性は、金属水銀が最も低く、次に「丹」などの無機水銀、水俣病で有名なメチル水銀＝有機水銀は、脂溶性なので体内に蓄積しやすく、毒性が高くなります。一方、気化した水銀は大変危険で、肺から吸収され、血中のヘモグロビンと結合し、一酸化炭素中毒同様、低酸素血症となり死に至ります。奈良時代の東大寺大仏は、金メッキ塗装でぴかぴかの黄金色であったことが知られていますが、当時、金を水銀に溶かし、表面に塗り、熱して水銀を蒸発させる方法（アマルガム）での金メッキ作業であったため、水銀を吸った多くの作業員が水銀中毒で、亡くなったといわれています。

最後に、丹生郡だけでなく、丹南地区には「丹生」という名前の山地や地名が残っていますが、丹南地域で「丹」＝硫化水銀が産出された形跡は調べた限りないようです。「丹生」の由来がわかる方がおられたら教えてください。

新任医師のご紹介

2023年1月以降に入職された新任医師をご紹介いたします。
今後ともよろしくお願いいたします。

整形外科

竹浦 直人
出身地：大阪府枚方市

４月から丹南病院で整形外科として勤務することになった竹浦直人です。丹南地区の医療の中核を担う丹南病院なので緊張していますが、同時に身が引き締まる気持ちでもあります。皆様のお役に少しでも立てるように精一杯がんばります。

産婦人科

山内 諒子
出身地：福井県福井市

１月からお世話になっております、産婦人科の山内諒子と申します。産婦人科には幅広い年代の患者さんが訪れます。年代、生活スタイル、周囲の環境などでも訴えは異なりますが、自分の経験も活かしつつ、産婦人科医療をより身近に感じてもらえるよう頑張りたいと思います。至らない点も多く、まだまだ未熟ではありますが、よろしくお願いいたします。

内　科

服部 知恵
出身地：京都府京都市

内科・消化器内科の服部知恵と申します。昨年まで京都府の病院で勤務をしており、この度ご縁があって公立丹南病院に着任いたしました。丁寧でわかりやすい診療を目指します。よろしくお願いいたします。

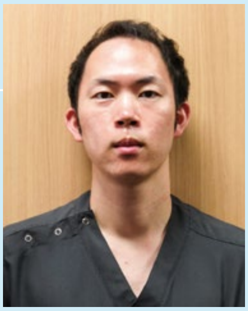
内　科

久野 哲弥
出身地：福井県越前市

福井大学医学部附属病院総合診療部から来ました医師５年目の久野と申します。大学病院での救急診療や総合診療外来、永平寺町立在宅訪問診療所での在宅診療などを経て、内科医として丹南地区へ来ました。皆様のお役に立てるように１日１日を大切に勤務します。どうぞ宜しくお願いします。

外科（内科・総合診療科）

大江 準也
出身地：福井県小浜市



自治医科大学卒業後、福井県立病院で２年間初期研修を行い、本年度から当院でお世話になっております。医師３年目の未熟者ですが丹南地区の医療に少しでも貢献できるよう日々精進していきます。よろしくお願いいたします。

総合診療科

垣内 駿吾
出身地：福井県越前市

救急科専攻医３年目の垣内駿吾と申します。出身高校は武生高校です。福井県立病院と沖縄県の中頭病院を経て丹南病院に赴任してまいりました。まだまだ未熟者ではありますが、地元の丹南地区の皆様に恩返しができるように一生懸命に頑張りたいと思います。急変した患者様の対応の際は是非お声をかけてください。よろしくお願いいたします。

公立丹南病院の感染管理室のご案内

はじめまして。
公立丹南病院で感染管理認定看護師をしております、宮田こず恵と申します。
今回は、「感染管理室の紹介」と「病気をもらわないために」「病気をひろげないために」できる事についてお話をさせて頂きます。

1. 丹南病院の感染管理室はどんな活動をしているの？

当院の感染管理室は、患者さんや家族、訪問者、医療従事者を医療に関連した感染から守ることを目的とし、2012年に開設されました。院内の感染に関する委員会やチーム会と連携して、研修会の開催やラウンド等の感染防止活動を行っています。今回の新型コロナウイルス感染症の流行では、地域住民のため、指定感染症医療機関としての役割を果たすため、組織が一丸となり役割を果たしてきました。

2.「病気をもらわないために」「病気をひろげないために」できる事

新型コロナウイルス感染症の流行により、日頃からの感染対策の重要性が再認識されました。５月８日には感染症法上の分類が2類相当から5類へ変更となりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染力が無くなったわけでも、ウイルス自体が無くなったわけでもありません。今後も私達はこのウイルスと賢く付き合う必要があります。

基本的な感染対策：体調管理、手指の消毒、体調不良時は休息し出歩かない、咳が出るときはマスクをする、換気等をみんなで続けることで、大きな流行は起きにくくなり、再び新興感染症（新型コロナウイルス感染症のような新しい感染症）が発生しても、大切な人を守ることができます。

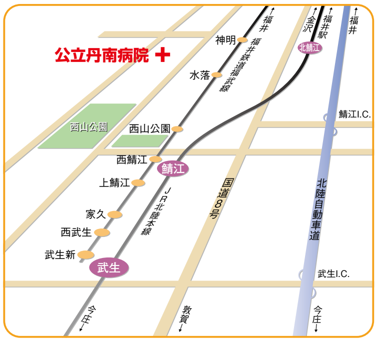
また、基本的な感染対策と一緒に、手指消毒アルコールやハンドソープ、マスク、風邪薬等の常備薬、イオン水やレトルトのお粥等を準備しておくことも大切です（災害用として既に準備されている方もいらっしゃると思います）。
自分のためにみんなのためにできる感染対策、今後も一緒に続けていきましょう。

公立 丹南病院

〒916-8515　福井県鯖江市三六町1丁目2-31
TEL 0778-51-2260　FAX 0778-52-8620
メールアドレス info@tannanhp-jadecom.jp
https://www.tannanhp-jadecom.jp/

公立丹南病院 在宅事業部

居宅介護支援事業所 TEL 0778-51-5411
訪問看護ステーション TEL 0778-52-2050
〒916-8515　福井県鯖江市三六町1丁目2-31　FAX 0778-52-2151
メールアドレス zaitaku@tannanhp-jadecom.jp

通所リハビリテーションセンター なごみの里 TEL 0778-51-5234
〒916-8515　福井県鯖江市三六町1丁目2-31　FAX 0778-51-8242
メールアドレス nagominosato@tannanhp-jadecom.jp

病児・病後児保育所「えくぼ」 TEL 080-6367-6567